

# 平成28年度 清水町教育委員会の活動状況に関する 点検・評価報告書

## 点検・評価の概要

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、毎年、事務の管理・執行の状況について点検・評価を行い、その報告書を議会に提出するとともに公表することが義務付けられています。

また、その際、客観性を確保する観点から、教育委員会以外の学識経験者による知見の活用を行うこととなっています。

清水町教育委員会としては、この点検・評価を、本町の教育資源を有効活用し効果的な教育行政の推進を図るための確認の機会であると捉えるとともに、住民への説明責任を果たすことができるように進めていきます。

評価対象は、年度当初に示す教育行政執行方針に基づき実施する事務事業のうち、本町の教育行政として特色ある事務事業としました。

また、点検・評価報告書の作成にあたっては、選定した事務事業の推進状況を自己評価し、外部知見の活用として学識経験者※から意見をいただき、今後の教育行政に活かすこととしています。

なお、報告書は毎年度議会へ提出し、公表します。

※学識経験者として、北海道教育庁十勝教育局及び教員（校長）経験者からそれぞれご意見をいただきました。

## 点検・評価した項目

清水町の教育行政の中で特色ある事務事業として次の7項目を選定しました。

- ① 町民総ぐるみの“しみず「教育の四季」”の推進
- ② 全国学力・学習状況調査の結果を受けての取組
- ③ 就学前教育を重視した幼保・小連携教育の推進
- ④ 小学校における低学年からの外国語（英語）活動
- ⑤ 「おいしい笑顔が見える給食」と「地産地消」を意識した食育の取組
- ⑥ 地域の教育力を活用する生涯学習ボランティア登録派遣事業
- ⑦ 子どもたちへの読み聞かせを中心とした図書館ボランティアの活動

# ① 町民総ぐるみの“しみず「教育の四季」”の推進

## 現状と成果

清水町の教育理念「心響」～打てば響く 心に響く～を基軸として、「心を通わせ、互いに響き合う感性豊かな教育の推進」を目指し、実践指標 “しみず「教育の四季」”を平成18年4月に宣言してから10年を経過しました。家庭・学校・地域が連携して、「あいさつ、返事、後片付け」「早寝、早起き、朝ごはん」など、主として子どもたちの基本的生活習慣の定着を図るための取組を展開してきました。本年度についても、4月に推進協議会を開催し、前年度の実践の成果と課題を踏まえた中で、町民が一丸となって子どもたちを守り育てる“しみず「教育の四季」”の取組を推進しました。

本年度の主な具体的な取組としては次のとおりです。

- ① “しみず「教育の四季」”リーフレットを町内小中学校及び保育所・幼稚園を通じて、家庭に配布しました。
- ② 「教育の四季」について町内会長等会議で協力を依頼し、リーフレットを町内会回覧により周知しました。
- ③ 中高連携としてのサイエンス・サマースクールを開催しました。
- ④ 第10回「子どもフォーラム」を開催し、各学校の児童会・生徒会での“しみず「教育の四季」”の取組の発表と「いじめ」について参加者を含めて意見交流を実施しました。
- ⑤ 町内各保育所の保護者参観日に“しみず「教育の四季」”の趣旨や取組について説明し、就学前教育の重要性についての理解を深めました。
- ⑥ 町内保育所、幼稚園、小中高校からの「ちょっといい話」を集約し、各所属所へ配布するとともに町のホームページに掲載し、清水町の幼保小中高の取組を積極的に発信しました。
- ⑦ 「しみずソーシャルメディアガイドライン」を策定し、各学校を通じて家庭に配布しました。あわせて全町内会で回覧により周知しました。

## 今後の課題

- ・ “しみず「教育の四季」”を町民総ぐるみの教育活動としていかに発展させていくか、特に地域住民の意識の高揚を図ることが重要です。
- ・ 地域・学校・家庭が互いに協力し合い、子どもたちを守り育てるという共通の目標と一連の活動の評価と情報をみんなで共有していくことが必要です。
- ・ 子どもたちの実態として①家庭での読書の時間が少ない。②家庭学習の時間が少ない。③テレビ・ゲームの時間が長い。④小学生の朝食を食べている割合が全国より低い。⑤就寝時間が遅いという傾向が見られます。家庭での基本的生活習慣の定着、家庭学習や読書の時間の確保が必要です。
- ・ 「しみずソーシャルメディアガイドライン」の実践について、実効性を高める取組が必要です。

## 今後の対応策

- ・ “しみず「教育の四季」”の取組の充実・発展と町民への浸透  
各町内会組織及び各種団体等への積極的な働き掛けを行うなど、町民全体への浸透を図る取組を引き続き展開します。「子どもフォーラム」を開催し、広く町民の参加を募ります。
- ・ 共通の目標と評価の共有化  
町内の幼稚園・保育所、小・中・高校の取組をHP等で積極的に発信していきます。
- ・ しみず「読書の日」(毎月19日)の啓発  
学校や図書館、読み聞かせボランティアと連携し、読書環境の更なる充実に努めます。
- ・ ソーシャルメディアのガイドラインの実効性を高める取り組みを検討し実施します。

## 学識経験者の意見

“しみず「教育の四季」”リーフレットの町内会組織を活用した町内会回覧や「しみずソーシャルメディアガイドライン」の家庭配付など、町民総ぐるみの教育活動を目指した実効性のある取組として評価できます。

今後は、地域・学校・家庭が教育に関する課題及び目標を共有し、子どもたちを守り育てる取組の一層の充実を期待します。

“しみず「教育の四季」”を町民総ぐるみの教育活動として、子どもたちの基本的生活習慣の定着を図るため、地域住民の意識向上を図ってきたことは、高く評価できます。

今後は、宣言10年を期に、マンネリにならぬように、各学校で現状と対応策を的確にとらえ、地域・家庭と一体となって、より良い方向へ転化していくことを期待します。

## ② 全国学力・学習状況調査の結果を受けての取組

### 現状と成果

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、小学6年生及び中学3年生の全児童生徒を対象とする全国学力・学習状況調査が国語、算数・数学の2教科で、4月19日に清水町の全小中学校4校で実施されました。

文部科学省は9月29日にその調査結果を公表しましたが、本町における教科に関する調査（国語、算数・数学）の平均正答率は、小学校の国語B、算数Bにおいて、全国平均を下回り、基礎・基本を活用することに課題が見られましたが、小学校の国語A、算数A、中学校では国語A、同Bが全国平均を上回り、中学校の数学A、Bは全国平均と同レベルの結果でした。多くの児童・生徒が概ね学習内容を理解し、基礎・基本の定着が図られ、中学校においてはそれらを活用することも身に付いていると考えています。

また、生活習慣や学習環境等に関する調査では、学習習慣、生活習慣、規範意識、自尊感情が全国に比べ上回っている傾向にあり、これまで取り組んできた小学校低学年の少人数学級や“しみず「教育の四季」”などの実践の成果と考えています。

一方で、家庭での学習や読書に時間について低い傾向にあり、これらの調査結果を分析し、学校における指導の工夫・改善等の視点や家庭・学校・地域が連携して学習環境の充実に向けた実践例を提示にした学力向上支援プランを教育委員会として作成し、町のホームページで公表しました。

各学校に学力向上支援プランを示し、各校においても調査結果を生かした今後の指導についての具体的方策をまとめ、保護者にお伝えするとともに、放課後や夏冬休みの学習機会の確保など学習支援の工夫をしたところです。

### 今後の課題

- ・本調査で測定できるのは、一部の学年と学力の一部ではありますが、調査結果を受けて各学校で学力・学習状況を把握・分析して、教育の成果と課題を継続的に検証し、学習指導の工夫・改善に役立てていく必要があります。
- ・家庭学習の確立や学習環境の充実など、学校以外での学習活動について充実を図っていくことが大切です。
- ・調査結果から明らかになった課題を踏まえ、今後も粘り強く、各学校、家庭、地域において子どもたちの学力向上のための効果的な取組を意欲的に充実していくことが大切です。

### 今後の対応策

- ・各学校との連携を図るとともに、小学校低学年における少人数学級の継続、幼保・小連携を重視した就学前教育の充実を推進し、児童生徒の学習意欲を高めるための学校の取組を支援していきます。
- ・規範意識の向上による学習習慣の確立や、基本的な生活習慣の育成を図り、学びに向かう姿勢の向上のため、“しみず「教育の四季」”の普及啓発を推進します。
- ・教員の資質向上については、学校教育課教育指導幹の学校訪問、外部講師の活用、十勝教育局指導主事派遣の要請、地域の人材による学習指導に関する支援体制を工夫していきます。

### 学識経験者の意見

各種調査結果の分析による課題や改善点を学力向上支援プランにまとめ、学校における指導の工夫・改善の視点や家庭における取組を具体的に示すなど、学校と家庭が一体となった学力向上の取組を推進しており評価できます。

今後は、“しみず「教育の四季」”のより一層の普及啓発により、家庭や地域と連携して、規範意識の向上による学習習慣の確立や、基本的な生活習慣の定着を図り、学びに向かう姿勢の向上に向けた取組の充実を期待します。

教育委員会が学力向上支援プランを作成・開示し、指導の工夫・改善等を組織的に取り組んでいることや、全国学力・学習状況調査で学習内容の理解、基礎・基本の定着が図られている結果が出ていることは評価できます。

今後、小学校国語B、算数B等、読解力の適切な指導法の改善を進めると共に、家庭での読書「家読（うちどく）」の実践の強化等、家庭や地域と課題や改善策を共有し、更に上を目指す取組を期待します。

### ③ 就学前教育を重視した幼保・小連携教育の推進

#### 現状と成果

小学校低学年における生活集団と学習集団の一体化の中で規範意識や躰、マナーの日常化を図るきめ細かな学習環境を整備するため、平成15年度より構造改革特区を活用し20人程度の少人数学級を実施したところですが、実施に当たっての理念の延長線上に、就学前教育の充実の必要性が強く感じられたところです。

このことから、町内の幼稚園・保育所と小学校のなめらかな接続を図るために、①教育課程と保育計画とのつながり、②教師と保育士との連携と研修、③幼児と児童の学びと遊びの交流などの視点から調査・研究を進めました。

調査・研究は、平成17年度から2ヵ年、道教委の委託を受けて、理念とその実践について指導機関の協力のもと進め、平成19年度以降は、2年間の調査研究事業の成果と課題を踏まえ、無理のない範囲で幼保・小のなめらかな接続を図る取組を継続実施しています。

具体的な取組として、全体会議である「清水町幼保・小連携協議会」の中に設置した清水地区と御影地区の2ブロックよる連携推進会議により、幼児と児童の交流はもちろんのこと、教師と保育士との交流及び研修を通して互いに指導・援助の違いなどの共通理解を図り、発達や学びの連続性を重視した活動を行っています。

平成28年度においても、6月の協議会開催を皮切りに、ブロックごとの推進協議、保育・授業参観、年長児と児童の交流、職員間の交流を積極的に実施しました。(なお、例年実施している「2ブロック合同研修会」については、大雨による災害の影響等により、今年度の実施を見送りました。)

#### 今後の課題

- ・基本的な生活習慣や思いやりの心を育む教育活動を幼稚園・保育所、小学校が同じ目線で一貫した取組をしていくことが大切であり、教師と保育士との間の情報交流や相互理解を図るためにも幼保・小連携の継続的な取組が求められています。そのために、連携の取組を継続することの重要性を全体で認識し、交流活動のねらいや方法について改善を重ねていく必要があります。
- ・連携を図るためには、保護者や地域の理解・協力を広めることも必要であり、協議会の会議へ保護者にも参加していただき、議論を深めることや協議会便り「つらなり」の充実を図る取り組みを行っており、更に継続していくことが必要です。

#### 今後の対応策

- ・幼保・小が無理なく継続することが大切ですので、清水町幼保・小連携協議会(=全体会議)において連携の柱となる骨格を協議・確認し、実践面の取組は各ブロック推進会議で担当教員を中心に推進していきます。
- ・幼稚園・保育所でのアプローチカリキュラムと小学校でのスタートカリキュラムを実践する中で、幼保と小の相互の理解を深め、いわゆる「小1プロブレム」の解消を図るべく、更なるカリキュラムの充実、実践、見直しを図ります。
- ・幼保・小連携推進会議の便り「つらなり」を町内配布し、保護者や地域への理解を深めるための啓発を行います。

#### 学識経験者の意見

清水町幼保・小連携協議会への保護者の参加や協議会便り「つらなり」の発行等、幼稚園・保育所、小学校が同じ目線で一貫した指導・援助となるよう、発達や学びの連続性を重視した活動を継続しており評価できます。

今後は、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの更なる改善・充実を図るとともに、保護者や地域に対する理解を深めるための啓発を推進し、いわゆる「小1プロブレム」の解消に向けた取組の一層の充実を期待します。

幼保・小の連携を積極的に展開し、就学前教育を重視した取り組みは評価できます。教員・保育士の交流は、年に1～2度の実施が多いが、双方の理解を深め、就学前教育を充実させるためには、(それぞれの負担が重くなると考えるが、)回数や参加人数を多くする必要があるのではと考えます。

## ④ 小学校における低学年からの外国語（英語）活動

### 現状と成果

清水町の子ども達が大人になったときに、外国語（英語）で日常のコミュニケーションがとれるようにするために、外国語や外国人の存在を柔軟に受け入れることができる小学校低・中学年（1～4年生）に対する外国語活動を平成26年度から実施しています。現在まで、子どものもつ好奇心を捉え、子どもたちが主体的に活動に参加することが大切と考え、何よりも「英語が好き」「活動が楽しい」と子どもたちが思えるからの外国語活動の展開を目指して実施してきました。

1～2年生については、活動の柱として主に歌やゲームをおこない、英語に触れること、担任を補助するAET（英語指導助手）に親しむ活動を行いました。

3～4年生については、英語に慣れることを活動の柱に、挨拶や単語の理解などをおこない、英語による日常のコミュニケーションを中心におこないました。

年間授業時間数については、1年生：10時間、2年生：12時間、3年生：15時間、4年生：20時間を目途に活動を実施しました。

基本的に担任が指導しますが、指導の内容をより充実させるため、補助として英語活動講師、AETが参加して活動しています。

保育所、幼稚園でも平成25年10月から英語活動を実施しており、小学校での英語活動は入学したばかりの1年生でも違和感なく参加できています。

担任教諭及び講師等の指導力の向上のため、小学校教諭1名、英語活動講師1名、AET2名が、北海道教育委員会主催の研修会を受講しました。

年度始めに、関係者が一同に会し、今年度の英語活動に係る打合せ会議を行いました。

### 今後の課題

- ・年度始めの打合せ会議において、各学年の年間活動内容については概ね妥当であると確認されたが、子どもたちが英語を楽しみながら習得できるよう今後も担任教諭、英語活動講師、AETと連携して内容の充実を図ることが必要であります。
- ・中学校の英語の授業との連続性について研究する必要があります。
- ・次期学習指導要領による外国語活動時間の増加を見据えて、活動時間の充実を図る必要があります。

### 今後の対応策

- ・担任教諭、英語活動講師、AETが連携して活動内容を共有しながら、英語を学ぶことが楽しいと思える活動内容の充実を進めます。
- ・担任教諭、英語活動講師、AETの指導力の向上に向けて、研修会への積極的な参加を推進します。
- ・保育所、幼稚園でも、小学校と同じ英語活動講師、AETが指導を行っているので、さらに一貫した活動内容を進めます。
- ・次期学習指導要領による外国語活動時間の増加を見据え、活動内容の見直しや時間確保、講師の確保等について、早い段階から各小学校など関係者との協議を行っていきます。

### 学識経験者の意見

小学校低学年からの外国語活動について、高学年での外国語活動への円滑な移行を図る観点から、外国語を通じて言語や文化について体験的に理解を深めさせたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成したりするために、発達の段階を踏まえた学習活動を工夫するなど、子どもが主体的に活動に参加できるようにしており評価できます。

今後は、学習指導要領の改訂を見据え、活動内容の見直しや授業時数の増加への対応等、教育課程の改善に向けた取組について、一層推進することを期待します。

AETや英語活動講師を通じ、外国人や英語に触れる楽しみを、低学年から高学年まで段階に応じた内容を設定し、努力していることは評価できます。

今後は、担任教師の英語力の向上を進め、英語活動講師、AETと連携して、指導内容の更なる充実を図ることを期待します。

## ⑤ 「おいしい笑顔が見える給食」と「地産地消」を意識した食育の取組

### 現状と成果

食育については、「おいしい笑顔が見える給食」と「考える給食」を合言葉に、毎月発行の「給食だより」に目標を掲げ、給食を通して正しい食事の取り方や望ましい食習慣を身に付けさせるなど、食に関する指導の充実を図るとともに、地元産の食材を多く利用したメニューを取り入れています。

また、給食センターに隣接する試験ほ場の耕起や作付け作業を関係団体の協力で行い、栽培したじゃが芋を給食の材料として使用しました。

さらに、給食に関わっている生産者や製造者の役割など、子どもたちが食の大切さについて理解を深めるため、清水産小麦「はるきらり」を使用したパンを年6回、提供しています。

なお、独自給食メニューとして、次の取り組みを行っています。

①十勝清水の恵み給食週間～清水産の食材を中心にした献立とすることにより、町内ではどのような食べ物が生産、加工・販売されているかを理解することに役立てています。

②全国学校給食週間特別献立～清水小学校6年生の児童が考えた献立を、全国学校給食週間の一環として取り入れ、実施しました。学校給食嗜好調の結果もとに、リクエスト献立として給食提供することで、子どもたちの食への関心を高めています。

③バイキング給食～小学校6年生、中学校3年生の卒業を祝うとともに、食品の栄養を理解し、バランスの取れた食事を選択する能力を身につけるように実施しています。児童・生徒からは継続実施を望まれています。

### 今後の課題

- ・共同調理施設は、現施設が平成9年度に整備されてから20年を経過し、調理機器の不具合や器具・備品の傷みが多くなってきていることから、衛生管理面からも適切に設備や備品の更新を図っていく必要があります。
- ・給食における異物混入が発生し、喫食児童・生徒への健康被害はありませんでしたが、重大な事故につながる食中毒や食物アレルギーを含め、安全で安心な給食提供が求められています。これらの防止対策として危機管理意識を高めた適切な対応が必要です

### 今後の対応策

- ・「学校給食における危機管理マニュアル」に基づく点検等を行い、調理作業及び衛生管理体制の現状把握とその改善方策の協議を職員全員で行って、異物混入及び食中毒の発生防止対策を徹底します。
- ・地産地消の推進のため地元農業者等の連携を継続するとともに、地場産物を活用した給食提供の充実に努め、町内生産者への理解につながるよう児童生徒の興味や関心を高め、生産者への感謝の心を養います。
- ・独自給食メニューを継続します。

### 学識経験者の意見

清水町産の食材を生かした独自の給食メニューの提供や子どもが考えた献立を取り入れるなど、食への興味・関心を高め望ましい食習慣を身に付けさせる取組を推進しており評価できます。

今後は、「学校給食における危機管理マニュアル」に基づく点検等を行い、異物混入及び食中毒の発生防止対策を徹底するなど、安心・安全な学校給食を提供する取組の一層の充実を期待します。

清水産の食材を活用した献立や、バイキング給食を提供する等、工夫をこらし、食に対する関心や望ましい食習慣を身につけさせる取り組みは評価できます。

今後も安心・安全な給食を提供し、望ましい食習慣を身につける一助となることや、地産・地消の意識をより高めていくことを期待します。

## ⑥ 地域の教育力を活用する生涯学習ボランティア登録派遣事業

### 現状と成果

町民のボランティア意欲をまちづくりや生涯学習活動に活かす「生涯学習ボランティア登録・派遣事業」を平成14年度から実施しています。この事業は、仕事や趣味で得た知識や技術を町民の学習活動に還元したいという方や、教育事業や教育施設に対して貢献したいという方を登録し、学習講師や活動支援を求める町内の団体・組織に派遣します。この学習成果の還元と人と人を結びつけることで、互いに学び合える町づくりを促進することをねらいとしています。

社会教育分野での派遣要請は僅少ですが、芸術分野等の専門性が求められるボランティアに対しての要請は引き続きあります。

登録者は、芸術文化やスポーツ、教養などの分野で52名おり、学校教育活動に対する支援者が多くを占めています。

学校の場合での書道ボランティア活動では、年間を通して派遣依頼があるため、昨年に引き続きユニフォームとなるエプロンを用意し、活動者の意欲と一体感を高めました。

これは、生涯学習ボランティア事業による町民の学習活動に対する支援の仕組みを構築した成果であり、協働の町づくりが着実に推進されている表れであります。

### 今後の課題

- ・継続したボランティア活動を活性化するためには、活動者や学校等の負担軽減と活動における調整者の配置が必要です。
- ・登録ボランティアの活動の場を開拓する必要があります。

### 今後の対応策

- ・ボランティア意識を高めるために、活動が社会から評価される広報を継続します。
- ・ボランティア活動の活発化に向けて、職員による調整を継続します。
- ・ボランティアが負担している消耗品等を公費で補います。

### 学識経験者の意見

地域の教育資源として仕事や趣味で得た知識や技術を持つ町民をボランティアとして登録し、学校教育や社会教育の中で活用するなど、人と人とが結び付き互いに学び合える町づくりを促進しており評価できます。

本事業を広く住民に周知することで、登録ボランティアの活動の場の拡充を図る取組がより一層活性化することを期待します。

書道ボランティア活動や、夏・冬休みの教育サポート活動等、地域の教育力を学習活動に対する支援活動が継続されていることは評価できます。

今後は、活動者の登録をより多く増やすと共に、活動内容や場を広げることや学校との深い連携を期待します。

## ⑦ 子どもたちへの読み聞かせを中心とした図書館ボランティアの活動

### 現状と成果

図書館の読み聞かせボランティアとして平成4年に結成された『五月会』の会員は現在6名で、毎月第2、第4土曜日に図書館で行うお話し会のほか、小学校・幼稚園・保育所での講演依頼に応じており、安定した活動をしています。

7月、12月に行った特別講演は、今年度も小学生や清水高校ボランティア部、AETのアシユリー講師（7月）とマライア講師（12月）の応援参加があるなどボランティアも充実していました。（平成28年度お話し会（12月末現在）14回開催、延べ324名参加）

今年度は、新たな読み手の育成を図るために開催している読み手育成講座に、池田町で活動する「E本よもう！どらねこ倶楽部」の杉山知子代表を講師として迎え、人気絵本の紹介や絵本の読み方のコツをつかむ内容で講座を行いました。高齢者への読み聞かせと子どもへの読み聞かせの違いや効果的な読み方についての実演もあり、地域における読み聞かせの輪が広がることを期待できます。また講座内で行ったアンケートでは、「今後お話し会で読み手として活動してみたい」という回答もあり、ボランティア活動への潜在的なニーズはありと考えられます。

### 今後の課題

・『五月会』は安定した活動をしてはいますが、会員の固定化、高齢化の解消には至っていません。現在読み手育成講座を開催していますが、講座参加者が実際に活動する場の提供をいかに広げることが課題です。

### 今後の対応策

・『五月会』には引き続き、読み聞かせ用の資料・情報提供などの活動支援を行います。  
・新たな読み手の育成につながる講座や活動の場を継続して行うことで、潜在ボランティアの開拓を行います。

### 学識経験者の意見

図書館の読み聞かせボランティアの活動に、読み手として小学生や高校生、AETが参加するなど、子どもの読書への興味・関心を高める取組を推進しており評価できます。

今後は、地域住民や保護者に対して、各種事業や活動情報の発信、PRを行い、新たな読み手や潜在的ボランティアの開拓、人材確保に取り組んでいくことを期待します。

図書館の読み聞かせボランティアの活動に、小学生や清水高校生、AETの応援参加があり、充実した活動が行われたり、読み手育成講座で、新しい読み手が育つ等の努力がされ、評価できます。

今後は、より多くの読み手を育て、活動がより充実されると共に、図書館の利用者増や、利用冊数の増加につながることを期待します。